

<b>1. 名称（他のプログラムと容易に区別できること）</b>
金沢城北家庭医療専門研修プログラム

<b>2. プログラム責任者</b>			
氏名	野口 卓夫	指導医認定番号	2014-0242
所属・役職	公益社団法人石川勤労者医療協会 羽咋診療所 所長		
所在地・連絡先	住所 〒925-0049 羽咋市柳橋町堂田 53-1 電話 0767-22-5652 FAX 0767-22-5187 E-mail tick.tak.go.go.0314@gmail.com		
連絡担当者氏名※・役職	廣瀬 辰巳・城北病院 事務次長		
連絡先	電話 076-251-6111 FAX 076-252-1993 E-mail t-hirose@jouchoku.jp		

※プログラム責任者と別に連絡担当者がある場合にのみ記載。プログラム認定において疑義が生じたとき、学会側から担当者が責任者に連絡することがある。

<b>3. 専攻医定員</b>
1年あたり（ 2 ）名 総定員（ 6 ）名

<b>4. プログラムの構成</b>								
<p>A. プログラムの種別と期間 該当するものは■に替える。</p> <p>■単独プログラム：総合診療専門医取得後に家庭医療専門研修プログラムに登録する場合</p> <p>■連動プログラム：総合診療専門研修プログラムに家庭医療専門研修プログラムを組み込む場合</p> <table border="1"> <tr> <td>総合診療専門研修プログラム名称</td> <td>北陸総合診療コンソーシアム城北病院プログラム</td> </tr> <tr> <td>プログラム責任者氏名</td> <td>牧田 智絵</td> </tr> <tr> <td>基幹施設（施設名・所在地）</td> <td>公益社団法人石川勤労者医療協会城北病院・石川県金沢市京町 20-3</td> </tr> <tr> <td>総合診療専門研修プログラムと家庭医療専門研修プログラムのプログラム責任者/基幹施設が異なる場合、その理由。また双方のプログラムが密に連携する方法。</td> <td>家庭医療専門研修プログラムは、より地域医療を身近に経験できるように診療所所長をプログラム責任者としている。2つのプログラムとも同一法人内の病院・診療所であり、密に連携をとり、プログラムを実施している。</td> </tr> </table> <p>※単独プログラムと連動プログラムは、同一施設で本様式内に両者を記載することで、同時申請可能。 ※単独プログラムは研修プログラム、研修管理、研修施設を6~8、連動プログラムはそれぞれ9~11に記載。</p> <p>B. 専門研修の構成（月単位の換算による） 該当するプログラムとその要件について、□を■に変更する</p> <p>■単独プログラム：          ■家庭医療専門研修Ⅰを12か月以上、家庭医療専門研修Ⅱを6か月以上、合計で24か月以上          ■家庭医療専門研修ⅠまたはⅡにおいて、同一施設で12か月以上連続した研修期間を設ける（それが困難な場合は細則第4条2を適用する）</p> <p>■連動プログラム：          ■家庭医療専門研修Ⅰを12か月以上、家庭医療専門研修Ⅱを6か月以上、合計で24か月以上          ■家庭医療専門研修ⅠまたはⅡにおいて、同一施設で12か月以上連続した研修期間を設ける（それが困難な場合は細則第4条2を適用する）</p>	総合診療専門研修プログラム名称	北陸総合診療コンソーシアム城北病院プログラム	プログラム責任者氏名	牧田 智絵	基幹施設（施設名・所在地）	公益社団法人石川勤労者医療協会城北病院・石川県金沢市京町 20-3	総合診療専門研修プログラムと家庭医療専門研修プログラムのプログラム責任者/基幹施設が異なる場合、その理由。また双方のプログラムが密に連携する方法。	家庭医療専門研修プログラムは、より地域医療を身近に経験できるように診療所所長をプログラム責任者としている。2つのプログラムとも同一法人内の病院・診療所であり、密に連携をとり、プログラムを実施している。
総合診療専門研修プログラム名称	北陸総合診療コンソーシアム城北病院プログラム							
プログラム責任者氏名	牧田 智絵							
基幹施設（施設名・所在地）	公益社団法人石川勤労者医療協会城北病院・石川県金沢市京町 20-3							
総合診療専門研修プログラムと家庭医療専門研修プログラムのプログラム責任者/基幹施設が異なる場合、その理由。また双方のプログラムが密に連携する方法。	家庭医療専門研修プログラムは、より地域医療を身近に経験できるように診療所所長をプログラム責任者としている。2つのプログラムとも同一法人内の病院・診療所であり、密に連携をとり、プログラムを実施している。							

## 5. 概要

### A. プログラムを展開する場や医療施設の地域背景や特長

地域医療の歴史がある石川民医連グループにおいて豊富にある社会資源を利用し研修を行います。長く通院されている方、その療養を支えるサービスを提供する施設群があり家庭医の研修条件として恵まれています。多くの患者会、地域住民が主催する班会、それらを運営する「健康友の会」のメンバーの方々との交流から地域で必要とされる医師像を体得することができます。また、城北病院、寺井病院、羽咋診療所、光陽生協病院、光陽生協クリニックは無料低額診療事業を行っており、経済的に困難を抱える患者・家族の治療を行う機会も多くあります。

また北陸3県は総合診療専門研修でも北陸総合診療コンソーシアムとして、各プログラム間で連携をとり、専攻医を柔軟に受け入れる土壌があり、北陸3県で総合診療専門医・家庭医を育てる枠組みを有している。

### B. プログラムの理念

「生命の尊さが差別されてはならない」を基本に、社会的弱者にも無差別で平等な医療を提供し、患者・家族に寄り添い、治療のみならず退院後地域で生活していくために必要な事を、患者や地域の方と共につくりあげることができる医師を育成する。

### C. 全体的な研修目標

#### 【一般目標】

診療所を1人で担うために必要な家庭医・プライマリケア医としての診療能力の基礎を身につける

#### 【個別目標】

1. 患者中心・家族志向の診療態度を身につけること
2. 包括的な医療を提供すること（長年診療所に通う患者様の診療を通じて、ライフサイクルにあわせた医療が提供できること）
3. 地域に必要な医療を理解し、地域の資源を利用してどのような医療・福祉システムを構築できるか考えることができる
4. 小病院の運営に関わる能力を身につける（医療保険制度・リスクマネジメント、スタッフの教育計画を立てること、施設外のスタッフと連携を築くこと）

### D. 各ローテーション先で学べる内容や特色

高齢者医療について総合的・主体的に学ぶことができる。

外来診療・在宅診療を行いつつ、外来から入院そして外来への一連の流れの中で患者を診ることを重点とする。

広く行なわれている地域医療懇談会（保健教室）に関わることで、地域住民主体の保健活動について学ぶことができる。

総合診療専門研修Ⅱは、城北病院の内科急性期病棟、救急外来を中心に研修を実施する。

内科研修は、城北病院の内科病棟を中心に、一般内科のみならず糖尿病の教育入院、透析、循環器、消化器内科など臓器別の研修も実施する。

救急では、一次二次の患者の、幅広い救急患者の初期診療（診断、初期治療、アドバンスド・トリアージ）研修することができる。

### E. 指導体制に関する特長

城北病院には、内科3名、小児科1名のプラマリ・ケア連合学会認定指導医がおり家庭医療の視点をもった指導が可能である。毎週1回（2時間程度）、専攻医、指導医、家庭医療に興味のある初期研修医でカンファレンスを行っているが、家庭医療を標榜する開業医の参加も得て、より広い視点でのカンファレンスができる。

### F. 医療専門職、保健・福祉専門職の協力を得る方法

研修施設は、チーム医療を重視しており、日常的に多職種と協力している。感染対策、栄養サポート、褥瘡対策などのチームにも参加できる。医療ソーシャルワーカーが外来、病棟に配置されており、容易に協力を得ることができる。

### G. 地域の住民、医療機関の利用者などの協力を得る方法

城北病院および連携施設は、「医療は患者と医療従事者の共同の営み」という考えのもと、患者自身が医療に主体的に参画できる場として「患者会」を構成し活動を進めている。また、HPH（Health Promoting Hospital・健康増進活動拠点病院）登録施設となっており、日々地域住民と健康づくり活動を行っている。その活動に日常的に参加する機会がある。

### H. その他

基幹型初期臨床研修病院であるため、初期研修医の指導を行う機会が多い。また、金沢大学「総合診療学・地域医療参加型臨床実習」を受け入れており、医学生の指導もする機会がある。

## 6. 単独プログラム：研修プログラム

### A. 経験目標（臨床）

別紙（エクセルの様式）に記載。

### B. 経験目標（研究）

次のいずれかの実績を条件とする。基準を満たす場合、□を■に変更する。

① 論文：家庭医療に関連する領域の学術雑誌（商業誌を含む）に筆頭著者として掲載された、原著、症例報告または総説・解説を1編以上。

② 著書：家庭医療に関連する単著または筆頭著者での分担執筆を1編以上。

③ 学会発表：学術集会において、筆頭演者として家庭医療に関連する内容の発表を2つ以上。ただし、院内発表会・ポータルフォーラム発表会等を除く。

■上記が実施できるような指導体制、準備期間、支援が準備できる。

### C. 学習環境

以下の基準を満たす場合、□を■に変更する。

■UpToDate®、DynaMed®、各種診療ガイドラインなどの情報源の利用：週1回以上

### D. 臨床現場での学習機会

以下の基準を満たす場合、□を■に変更する。

■指導医とのビデオレビュー（各専攻医あたり）：6カ月に1回以上

■診断・治療をテーマにした家庭医療専門研修Ⅰの症例カンファレンス：月2回以上

■診断・治療をテーマにした家庭医療専門研修Ⅱの症例カンファレンス：週1回以上

■困難事例のマネジメントをテーマにしたカンファレンス：月1回以上

■指導医と専攻医が行う振り返り：月1回以上

### E. Off-the-job training

以下の基準を満たす場合、□を■に変更する。

必須単位：臨床36単位（うち災害医療とウイメンズヘルスおよびメンタルヘルスは各3単位以上）、教育6単位、研究6単位、マネジメント6単位

ただし、ウイメンズヘルス3単位については、研修の開始から修了までの間に産婦人科研修（定期的な外来研修を含む）を行った場合は免除する。メンタルヘルス3単位については、研修の開始から修了までの間に精神科または心療内科研修（定期的な外来研修を含む）を行った場合は免除する。

■上記に確実に参加できるよう支援できる。

### F. 地域の医師会や行政と連携した地域保健活動

日本医師会かかりつけ医機能研修制度実地研修に定める以下の項目のうち、5つ以上実践する。

実践を予定する項目について□を■に変更する。

■1. 学校医・園医、警察業務への協力医

□2. 健康スポーツ医活動

■3. 感染症定点観測への協力

■4. 健康相談、保健指導、行政（保健所）と契約して行っている検診・定期予防接種の実施

■5. 早朝・休日・夜間・救急診療の実施・協力

■6. 産業医・地域産業保健センター活動の実施

■7. 訪問診療の実施

□8. 家族等のレスパイトケアの実施

■9. 主治医意見書の記載

□10. 介護認定審査会への参加

■11. 退院カンファレンスへの参加

■12. 地域ケア会議等※への参加（※会議の名称は地域により異なる）

□13. 医師会、専門医会、自治会、保健所関連の各種委員

□14. 看護学校等での講義・講演

■15. 市民を対象とした講座等での講演

■16. 地域行事（健康展、祭りなど）への医師としての出務

### G. 家庭医療専門研修Ⅰ・Ⅱ研修期間中の形成評価（記録は保管すること）

各専攻医当たりの回数に関して以下の基準を満たす場合、□を■に変更する。

■研修手帳の記録の確認と共同振り返り：月1回以上

■360度評価：6カ月に1回以上

■Case-based discussion (CbD)：3カ月に1回以上

■Mini-CEX（ビデオレビュー時でも可）：6カ月に1回以上

## 7. 単独プログラム：研修管理

### A. 研修管理委員会：構成メンバー

氏名	所属	役職	職種
野口 卓夫	羽咋診療所	所長	医師
牧田 智絵	城北病院	総合診療部内科医長	医師
中内 義幸	寺井病院	副院長	医師
平野 治和	光陽生協クリニック	院長	医師
藤牧 和恵	城北病院	看護部長	看護師
廣瀬 辰巳	城北病院	事務次長	事務
専攻医代表		専攻医代表	専攻医

※1 行が足りないときは、随時増やすこと。

※2 医師以外の職種、専攻医代表（具体名が書ければ記載）、専門研修に関わる各施設指導医を、最低各1名はメンバーに加える。

### B. 施設群の構成

#### (1) 基幹施設

名称	研修担当分野※1	プログラム責任者名	指導医数	他に連携するプログラムの名称
羽咋診療所	①	野口 卓夫	1	なし

#### (2) 連携施設※2

名称	研修担当分野※1	施設代表者名	指導医数	他に連携するプログラムの名称
城北病院	②	牧田 智絵	4	なし
寺井病院	①	中内 義幸	2	なし
光陽生協クリニック	①	平野 治和	1	なし

※1 ①家庭医療専門研修Ⅰ、②家庭医療専門研修Ⅱ、③管理業務のみ（基幹施設のみ該当）の形で番号を記入。

※2 専門研修連携施設については、行が足りないときは随時増やすこと。

### C. 研修資源の予算

■研修施設として、教育に割り当てる資源に対する責務と権限に関する明確な方針が存在している。

### D. プログラム責任者履歴

記入日	2024年6月27日
氏名	野口 卓夫
卒後年数	1993年
主な職歴	1993年4月石川勤労者医療協会入職、2020年4月～石川勤労者医療協会羽咋診療所
専門医・指導医資格	日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医
主な教育歴	金沢大学医薬保健学域医学類（学外）臨床講師
必要な講習会受講歴	平成15年度臨床研修指導医講習会（医療研修財団主催）
その他	

※プログラム副責任者がいる場合は、以下のスペースに欄をコピーして履歴を示すこと。

### E. 指導医の立場

■指導医は、認定基準を満たす指導ができるだけの業務時間と権限を割り当てられている。

### F. 専攻医の立場

■専攻医の身分や給与などの処遇は、研修期間を通して適切に担保され、関係者に周知されている。

■専攻医は、医療チームの一員として、他に働いている医師と同様の診療業務（休日や夜間の時間帯を含む）に携わる。

### G. メンター制度

■専攻医の研修上の問題解決やキャリア形成の支援をするためのメンター制度を導入している。

### H. 総括評価

■下記が実施できるような評価体制が準備できる。

- 家庭医療専門研修Ⅰ・Ⅱの修了時に、研修手帳に記載された自己評価の確認と到達度評価を指導医が実施する。
- 研修期間を満了し、家庭医療専門研修Ⅰを12か月以上、家庭医療専門研修Ⅱを6か月以上、合計で24か月以上修了している。

指導医から修了に足る評価が得られたことをプログラム責任者が確認する。

- 専攻医自身が作成したポートフォリオにおいて全領域で基準に到達していることをプログラム責任者が確認する。
- 経験目標は研修プログラムに定められた基準に到達していることをプログラム責任者が確認する。
- 360度評価、CbD、Mini-CEXの結果は、各施設で定めた基準に達していることをプログラム責任者が確認する。

I. 研修修了認定の方法

■修了判定会議のメンバーは、研修管理委員会と同一（専攻医代表のみ退席）

□その他（

）

8. 単独プログラム：研修施設

8-1. 家庭医療専門研修 I

研修施設名 1	寺井病院	診療科名（	内科	）
施設種別	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 200床以下の小病院	<input type="checkbox"/> 中規模病院（※下に中規模病院で本研修を行う必要性を記すこと）	（	
家庭医療専門研修 I における研修期間	（ 12 ） カ月			
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請*			
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。				
指導医氏名 1	中内 義幸	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	（ 2013-911 ）
指導医氏名 2	島 隆雄	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	（ 2014-0471 ）
指導医氏名 3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	（

要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））

施設要件

各専攻医当たりの経験症例数として、

■外来のべ患者数：概ね 30 人／週以上である。

■後期高齢者：経験症例数全体の 10%以上である。

中学生以下の小児：経験症例数全体の 5%以上である。

満たさない場合、以下のいずれかが必要。

1 人の専攻医が診療する中学生以下の患者数が 1 カ月あたり 6 人以上

■同一診療圏内の医療機関（自院小児科も含む）で補完する※：施設名（ 城北病院 ）

第 7 条(5) #に規定する医療過疎地域に位置する施設で、中学生以下の患者を断らずに実際に診療を提供している。

年間患者数実績（ ）人、当該年齢層の患者数（ ）人

第 7 条(5) #に規定する医療過疎地域に位置する施設ではないが、中学生以下の患者を断らずに実際に診療を提供している（2026 年度末までの経過措置）

年間患者数実績（ ）人、当該年齢層の患者数（ ）人

※「研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修」に追記すること。

#細則第 7 条（5）より抜粋

医療過疎地域に位置した施設とは、

①総務省の「過疎関係市町村都道府県別分布図」にて過疎市町村や区域ないしはみなされる市町村や区域に位置する病院・診療所、

②厚生労働省へき地医療対策等実施要綱で定義されるへき地診療所

③地域枠や自治医科大学の卒業生に対する医師派遣施策等に基づき、医師派遣が必要な施設であると各都道府県の医師派遣を担当する部署が判断し、その旨の文書が出せる施設

のいずれかを指す。

■精神医学・心身医学領域の疾患：概ね 2 人／週以上である。

■訪問診療患者数概ね 5 人／週以上、終末期医療概ね 1 人／6 カ月以上であり、緊急往診に対応可能である。

※満たさない場合、以下のいずれかが必要。上の条件の場合「研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修」に追記すること。

同一診療圏内の医療機関で補完する※：施設名（

第 7 条(5)に規定する医療過疎地域に位置する施設で、訪問診療と往診の患者数を合わせて週に 1 人以上、そのうち終末期医療を 1 人以上経験できる

※「研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修」に追記すること。

体制やコンセプト

■アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。

具体的な体制と方略（ 夜間、休日は日当直体制で 1 次救急を担っている。 ）

■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。

具体的な体制と方略（ 外来から入院そして外来・在宅と一連の流れを診ることができる。 ）

■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。

具体的な体制と方略（ 幅広い患者に対応できるように、外来・入院・在宅診療を担当。自治体・企業健診も受け入れている。また、HPH ネットワークに加盟しており、健康増進の取り組みを行っている。 ）

■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。

具体的な体制と方略（ グループ内の施設はもとより、日頃路から近隣施設との連携はできている。 ）

■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。

具体的な状況（ 家族ごと患者を受け入れできる体制になっている。 ）

■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。

具体的な内容与方法（ 自治体健診のお誘いや、地域の健康づくり活動へ継続的に参加し、地域住民の状況や要望を

把握し医療活動につなげる経験ができる。)	
週当たり研修日数：( 4 ) 日/週 ※本研修(家庭医療専門研修Ⅰ)は週に4日以上行わなければならない。下記研修と合算し、業務は週最大5.5日に留めること。	
家庭医療専門研修Ⅰ(本研修)の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数(週1日まで)※カンファレンス等学習機会はここに記載しない。	
内容	城北病院での小児科研修
日数	1日/週

<b>8. 単独プログラム：研修施設</b>				
<b>8-1. 家庭医療専門研修Ⅰ</b>				
研修施設名2	光陽生協クリニック	診療科名( )	内科	
施設種別	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 中規模病院(※下に中規模病院で本研修を行う必要性を記すこと) <input type="checkbox"/> 200床以下の小病院 ( )			
家庭医療専門研修Ⅰにおける研修期間	( 12 ) カ月			
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請※			
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。				
指導医氏名1	平野 治和	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	( 2013-841 )
指導医氏名2		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	( )
指導医氏名3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	( )
要件(各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす(■のように))				
<b>施設要件</b>				
各専攻医当たりの経験症例数として、				
■外来のべ患者数：概ね30人/週以上である。				
■後期高齢者：経験症例数全体の10%以上である。				
<input type="checkbox"/> 中学生以下の小児：経験症例数全体の5%以上である。 満たさない場合、以下のいずれかが必要。				
<input type="checkbox"/> 1人の専攻医が診療する中学生以下の患者数が1カ月あたり6人以上				
■同一診療圏内の医療機関(自院小児科も含む)で補完する※：施設名( 城北病院 )				
<input type="checkbox"/> 第7条(5)※に規定する医療過疎地域に位置する施設で、中学生以下の患者を断らずに実際に診療を提供している。 年間患者数実績( )人、当該年齢層の患者数( )人				
<input type="checkbox"/> 第7条(5)※に規定する医療過疎地域に位置する施設ではないが、中学生以下の患者を断らずに実際に診療を提供している(2026年度末までの経過措置) 年間患者数実績( )人、当該年齢層の患者数( )人				
※「研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修」に追記すること。 #細則第7条(5)より抜粋 医療過疎地域に位置した施設とは、 ①総務省の「過疎関係市町村都道府県別分布図」にて過疎市町村や区域ないしはみなされる市町村や区域に位置する病院・診療所、 ②厚生労働省へき地医療対策等実施要綱で定義されるへき地診療所 ③地域枠や自治医科大学の卒業生に対する医師派遣施策等に基づき、医師派遣が必要な施設であると各都道府県の医師派遣を担当する部署が判断し、その旨の文書が出せる施設 のいずれかを指す。				
■精神医学・心身医学領域の疾患：概ね2人/週以上である。				
■訪問診療患者数概ね5人/週以上、終末期医療概ね1人/6カ月以上であり、緊急往診に対応可能である。 ※満たさない場合、以下のいずれかが必要。上の条件の場合「研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修」に追記すること。				
<input type="checkbox"/> 同一診療圏内の医療機関で補完する※：施設名( )				
<input type="checkbox"/> 第7条(5)に規定する医療過疎地域に位置する施設で、訪問診療と往診の患者数を合わせて週に1人以上、そのうち終末期医療を1人以上経験できる ※「研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修」に追記すること。				
<b>体制やコンセプト</b>				
■アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略( 時間外は職員による交代制で電話にて対応可能。 )				
■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略( 在宅管理のケースを受持ち、指導医と共にカンファレンスを定期実施する。 )				
■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略( 外来及び在宅医療、健診活動に関わり、指導医と連携をして研修をする。 )				
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略( 他事業所連携に関わり、連携ツールを複数利用し研修をする。 )				
■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。				

具体的な状況（ 地域の患者は一家で受診する傾向がある。 ）	
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な内容与方法（ 健康教室や健康相談会などの実施。 ）	
週当たり研修日数：（ 4 ）日/週 ※本研修（家庭医療専門研修Ⅰ）は週に4日以上行わなければならない。下記研修と合算し、業務は週最大5.5日に留めること。	
家庭医療専門研修Ⅰ（本研修）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週1日まで）※カンファレンス等学習機会はここに記載しない。	
内容	城北病院での小児科研修
日数	1日/週

<b>8. 単独プログラム：研修施設</b>				
<b>8-1. 家庭医療専門研修Ⅰ</b>				
研修施設名 3	羽咋診療所	診療科名（ 内科 ）		
施設種別	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 中規模病院（※下に中規模病院で本研修を行う必要性を記すこと） <input type="checkbox"/> 200床以下の小病院（ ）			
家庭医療専門研修Ⅰにおける研修期間		（ 6 ）カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無		<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請※		
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。				
指導医氏名 1	野口 卓夫	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	（ 2014-0242 ）
指導医氏名 2		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	（ ）
指導医氏名 3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	（ ）
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））				
<b>施設要件</b>				
各専攻医当たりの経験症例数として、				
■外来のべ患者数：概ね30人/週以上である。				
■後期高齢者：経験症例数全体の10%以上である。				
■中学生以下の小児：経験症例数全体の5%以上である。 満たさない場合、以下のいずれかが必要。				
<input type="checkbox"/> 1人の専攻医が診療する中学生以下の患者数が1カ月あたり6人以上 <input type="checkbox"/> 同一診療圏内の医療機関（自院小児科も含む）で補完する※：施設名（ ） <input type="checkbox"/> 第7条(5)に規定する医療過疎地域に位置する施設で、中学生以下の患者を断らずに実際に診療を提供している。 年間患者数実績（ ）人、当該年齢層の患者数（ ）人 <input type="checkbox"/> 第7条(5)に規定する医療過疎地域に位置する施設ではないが、中学生以下の患者を断らずに実際に診療を提供している（2026年度末までの経過措置） 年間患者数実績（ ）人、当該年齢層の患者数（ ）人 ※「研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修」に追記すること。 #細則第7条(5)より抜粋 医療過疎地域に位置した施設とは、 ①総務省の「過疎関係市町村都道府県別分布図」にて過疎市町村や区域ないしはみなされる市町村や区域に位置する病院・診療所、 ②厚生労働省へき地医療対策等実施要綱で定義されるへき地診療所 ③地域枠や自治医科大学の卒業生に対する医師派遣施策等に基づき、医師派遣が必要な施設であると各都道府県の医師派遣を担当する部署が判断し、その旨の文書が出せる施設 のいずれかを指す。				
■精神医学・心身医学領域の疾患：概ね2人/週以上である。				
■訪問診療患者数概ね5人/週以上、終末期医療概ね1人/6カ月以上であり、緊急往診に対応可能である。 ※満たさない場合、以下のいずれかが必要。上の条件の場合「研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修」に追記すること。 <input type="checkbox"/> 同一診療圏内の医療機関で補完する※：施設名（ ） <input type="checkbox"/> 第7条(5)に規定する医療過疎地域に位置する施設で、訪問診療と往診の患者数を合わせて週に1人以上、そのうち終末期医療を1人以上経験できる ※「研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修」に追記すること。				
<b>体制やコンセプト</b>				
■アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略（ 時間外は職員による交代制で電話にて対応可能。 ）				
■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略（ 在宅管理のケースを受け持ち、指導医と共にカンファレンスを定期実施する。 ）				
■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略（ 外来及び在宅医療、健診活動に関わり、指導医と連携をして研修をする。 ）				
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略（ 他事業所連携に関わり、連携ツールを複数利用し研修をする。 ）				

■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な状況（地域の患者は一家で受診する傾向がある。）	（ ）
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な内容与方法（健康教室や健康相談会などの実施。）	（ ）
週当たり研修日数：（ 4 ）日／週 ※本研修（家庭医療専門研修Ⅰ）は週に4日以上行わなければならない。下記研修と合算し、業務は週最大5.5日に留めること。	
家庭医療専門研修Ⅰ（本研修）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数 （週1日まで）※カンファレンス等学習機会はここに記載しない。	
内容	
日数	日/週

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載。その際、研修施設名「1」の番号を順に「2」、「3」と増やすこと。

8-2. 家庭医療専門研修Ⅱ				
研修施設名1	城北病院	診療科名（内科）		
施設情報	病院病床数（300）床	診療科病床数（115）床		
家庭医療専門研修Ⅱにおける研修期間	（6）カ月			
常勤の認定指導医の配置の有無	<input type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請※			
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。				
指導医氏名1	松島 実	■常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	（2014-1539）
指導医氏名2	牧田 智絵	■常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	（2013-910）
指導医氏名3	中村 宏信	■常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	（2013-0365）
指導医氏名4	武石 大輔	■常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	（2013-586）
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））				
<b>施設要件</b>				
■一般病床を有する				
■救急医療を提供している				
<b>各専攻医当たりの経験症例数</b>				
■退院サマリー作成数：概ね8人／月以上				
■うち、救急外来や一般外来からの緊急（即日）入院：概ね4人／月以上				
■退院前カンファレンス参加件数：概ね1件／月以上				
■外来患者数：概ね15人／週以上				
■うち、新患・定期外の急性の問題：概ね5人／週以上				
■救急外来患者数：概ね3人／週以上				
<b>病棟診療</b>				
■高齢者（特に虚弱）ケア				
具体的な体制と方略（入院の約半数が高齢者であり、いろいろな医療資源を使用しケアする。）				
■複数の健康問題を抱える患者への対応				
具体的な体制と方略（1医局のため、当院の他科専門医にコンサルトをしやすい環境である。大学病院、公立病院、近隣病院の専門医との連携もとれている。）				
■必要に応じた専門医との連携				
具体的な体制と方略（大学病院、公立病院、近隣病院の専門医との連携をしているので、必要なコンサルトは可能。）				
■心理・社会・倫理的複雑事例への対応				
具体的な体制と方略（精神科医2名、臨床心理士1名、医療ソーシャルワーカー5名常勤でいるので常時相談ができる。病棟毎に多職種によるカンファレンスも週1回行われており、そこでは患者の生活背景も含めて対応を検討し共有している。倫理的な事例は倫理委員会で集団的に検討している。）				
■癌・非癌患者の緩和ケア				
具体的な体制と方略（緩和ケア認定看護師を中心にチームで対応している。緩和ケア病棟もあり研修も可能である。）				
■退院支援と地域連携機能の提供				
具体的な体制と方略（退院においては医療ソーシャルワーカー、地域連携室が関わり近隣の施設と調整を行っている。退院時には受け入れ先も含めて退院時カンファレンスを開催している。同一法人内にも在宅支援を行う施設が複数ある。）				
■在宅患者の入院時対応				
具体的な体制（法人内の在宅支援診療所や近隣の診療所の紹介入院がある。急性期が終われば紹介元に戻れるように調整する。）				



<b>外来診療</b>	
■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（ 24 時間当番制で救急外来を担当し、急患や救急車の対応を行っている。）	
■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（ 救急外来にて、小児から高齢者まで総合的に診療を行う。病院外来で総合外来および内科一般外来を担う ）	
■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（救急では 2.5 次救急まで担う総合外来では、初診の患者を主に診療する。内科一般外来は、慢性期の定期受診患者であり、生活習慣病として患者背景も含めて対応が必要である。 ）	
■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（週 1 回家庭医療カンファレンス、外来診察については指導医と全例振り返りを行う。）	
■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（ 城北病院は 1 医局で、当院の他科専門医にコンサルトをしやすい環境である。大学、公立病院、近隣病院の専門医との連携もとれている。院内の各職種とも日頃から連携が取りやすい環境で、協力しながらケアをする。 ）	
■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（ 他院へ紹介して、精査を行う。）	
<b>体制やコンセプト ※この施設で 12 か月以上連続して行うことを細則第 4 条の要件とする場合には記載する</b>	
■アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略（ 2 次救急を実施。 ）	
■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略（ 入院主治医を実施していた患者が退院した後の外来フォローも実施する。 ）	
■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略（ 担当入院患者が急性期病棟から地域包括ケア病棟、慢性期病棟、緩和ケア病棟に転病棟しても継続的に主治医を継続する。 ）	
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略（ 同一法人内診療所、介護施設等と密接に連携をしている。また地域の病院、診療所、介護介・福祉施設とも連携をとっている。 ）	
■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な状況（ 城北病院の外来は慢性疾患管理を実施しており、家族ぐるみの診療も多い。 ）	
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な内容と方法（ 城北病院は日本 HPH ネットワークに加盟しており、患者の視点、住民の視点でのヘルスプロモーション活動に取り組んでいる。 ）	
週当たり研修日数：（ 4 ）日/週 ※本研修（家庭医療専門研修Ⅱ）は週に 4 日以上行わなければならない。下記研修と合算し、業務は週最大 5.5 日に留めること。	
家庭医療専門研修Ⅱ（本研修）の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週 1 日まで）※並行して行う研修は内科、小児科は除く。カンファレンス等学習機会はここに記載しない。	
内容	城北病院での総合外来 (0.5)・一般外来 (0.5)・皮膚科 (0.5)・眼科 (0.5)、城北病院での放射線科 (0.5)・検査部 (0.5) 専攻医の希望により週 1 日を限度に組み合わせて研修する。産業医療科 (1) は期間内に行う。
日数	1 日/週

※研修施設が 2 箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載。その際、研修施設名「1」の番号を順に「2」、「3」と増やすこと。

8-3. 領域別研修：その他*						
研修領域	必修・ 選択別	ブロック・ 兼任の別	研修日数/週 (兼任の場合)	研修期間	研修施設名と 診療科名	指導医氏名
内科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( ) カ月		
小児科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( ) カ月		
救急	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( ) カ月		
一般外科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( ) カ月		
整形外科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( ) カ月		
精神科/ 心療内科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( ) カ月		
産婦人科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( ) カ月		
皮膚科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input checked="" type="checkbox"/> 兼任	(0.5) 日/週	( 1 ) カ月	城北病院 皮膚科	内山 恵理
泌尿器科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input checked="" type="checkbox"/> 兼任	(0.5) 日/週	( 1 ) カ月	城北病院 泌尿器科	折戸 松男
眼科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	(0.5) 日/週	( 1 ) カ月	城北病院 眼科	佐々木 洋
耳鼻咽喉科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( ) カ月		
放射線科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	(0.5) 日/週	( 1 ) カ月	城北病院 放射線科	牧田 伸三
臨床検査	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	(0.5) 日/週	( 1 ) カ月	城北病院 検査科	(指導者：米澤 文枝臨床検査技 師)
リハビリ テーション	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( ) カ月		
その他 ( )	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( 1 ) 日/週	( 1 ) カ月	城北病院 健康支援センター	服部 真

※家庭医療専門研修プログラム期間中に行うものだけ記載すればよい。

## 9. 連動プログラム：研修プログラム

### A. 経験目標（臨床）

別紙（エクセルの様式）に記載。

### B. 経験目標（研究）

次のいずれかの実績を条件とする。基準を満たす場合、□を■に変更する。

① 論文：家庭医療に関連する領域の学術雑誌（商業誌を含む）に筆頭著者として掲載された、原著、症例報告または総説・解説を1編以上。

② 著書：家庭医療に関連する単著または筆頭著者での分担執筆を1編以上。

③ 学会発表：学術集会において、筆頭演者として家庭医療に関連する内容の発表を2つ以上。ただし、院内発表会・ポータルフォーリオ発表会等を除く。

■上記が実施できるような指導体制、準備期間、支援が準備できる。

### C. 学習環境

以下の基準を満たす場合、□を■に変更する。

■UpToDate®、Dynamed®、各種診療ガイドラインなどの情報源の利用：週1回以上

### D. 臨床現場での学習機会

以下の基準を満たす場合、□を■に変更する。

■指導医とのビデオレビュー（各専攻医あたり）：6カ月に1回以上

■診断・治療をテーマにした家庭医療専門研修Ⅰの症例カンファレンス：月2回以上

■診断・治療をテーマにした家庭医療専門研修Ⅱの症例カンファレンス：週1回以上

■困難事例のマネジメントをテーマにしたカンファレンス：月1回以上

■指導医と専攻医が行う振り返り：月1回以上

### E. Off-the-job training

以下の基準を満たす場合、□を■に変更する。

必須単位：臨床36単位（うち災害医療とウイメンズヘルスおよびメンタルヘルスは各3単位以上）、教育6単位、研究6単位、マネジメント6単位

ただし、ウイメンズヘルス3単位については、研修の開始から修了までの間に産婦人科研修（定期的な外来研修を含む）を行った場合は免除する。メンタルヘルス3単位については、研修の開始から修了までの間に精神科または心療内科研修（定期的な外来研修を含む）を行った場合は免除する。

■上記に確実に参加できるよう支援できる。

### F. 地域の医師会や行政と連携した地域保健活動

日本医師会かかりつけ医機能研修制度実地研修に定める以下の項目のうち、5つ以上実践する。

実践を予定する項目について□を■に変更する。

■1. 学校医・園医、警察業務への協力医

□2. 健康スポーツ医活動

■3. 感染症定点観測への協力

■4. 健康相談、保健指導、行政（保健所）と契約して行っている検診・定期予防接種の実施

■5. 早朝・休日・夜間・救急診療の実施・協力

■6. 産業医・地域産業保健センター活動の実施

■7. 訪問診療の実施

■8. 家族等のレスパイトケアの実施

■9. 主治医意見書の記載

□10. 介護認定審査会への参加

■11. 退院カンファレンスへの参加

■12. 地域ケア会議等※への参加（※会議の名称は地域により異なる）

□13. 医師会、専門医会、自治会、保健所関連の各種委員

□14. 看護学校等での講義・講演

■15. 市民を対象とした講座等での講演

■16. 地域行事（健康展、祭りなど）への医師としての出務

### G. 家庭医療専門研修Ⅰ・Ⅱ研修期間中の形成評価（記録は保管すること）

各専攻医当たりの回数に関して以下の基準を満たす場合、□を■に変更する。

■研修手帳の記録の確認と共同振り返り：月1回以上

■360度評価：6カ月に1回以上

■Case-based discussion (CbD)：3カ月に1回以上

■Mini-CEX（ビデオレビュー時でも可）：6カ月に1回以上

## 10. 連動プログラム：研修管理

### A. 研修管理委員会：構成メンバー

氏名	所属	役職	職種
野口 卓夫	羽咋診療所	所長	医師
牧田 智絵	城北病院	総合診療部内科医長	医師
中内 義幸	寺井病院	副院長	医師
平野 治和	光陽生協クリニック	院長	医師
藤牧 和恵	城北病院	看護部長	看護師
廣瀬 辰巳	城北病院	事務次長	事務
専攻医代表		専攻医代表	専攻医

※1 行が足りないときは、随時増やすこと。

※2 医師以外の職種、専攻医代表（専攻医在籍時）、専門研修に関わる各施設指導医を、最低各1名はメンバーに加える。

### B. 施設群の構成

#### (1) 基幹施設

名称	研修担当分野※1	プログラム責任者名	指導医数	他に連携するプログラムの名称
羽咋診療所	①	野口 卓夫	1	なし

#### (2) 連携施設※2

名称	研修担当分野※1	施設代表者名	指導医数	他に連携するプログラムの名称
城北病院	②	牧田 智絵	4	なし
寺井病院	①	中内 義幸	2	なし
光陽生協クリニック	①	平野 治和	1	なし

※1 ①家庭医療専門研修Ⅰ、②家庭医療専門研修Ⅱ、③管理業務のみ（基幹施設のみ該当）の形で番号を記入。

※2 専門研修連携施設については、行が足りないときは随時増やすこと。

### C. 研修資源の予算

研修施設として、教育に割り当てる資源に対する責務と権限に関する明確な方針が存在している。

### D. プログラム責任者履歴

記入日	2024年6月27日
氏名	野口 卓夫
卒後年数	1993年
主な職歴	1993年4月石川勤労者医療協会入職、2020年4月～石川勤労者医療協会羽咋診療所
専門医・指導医資格	日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医
主な教育歴	金沢大学医薬保健学域医学類（学外）臨床講師
必要な講習会受講歴	平成15年度臨床研修指導医講習会（医療研修財団主催）
その他	

※プログラム副責任者がいる場合は、以下のスペースに欄をコピーして履歴を示すこと。

### E. 指導医の立場

■指導医は、認定基準を満たす指導ができるだけの業務時間と権限を割り当てられている。

### F. 専攻医の立場

■専攻医の身分や給与などの処遇は、研修期間を通して適切に担保され、関係者に周知されている。

■専攻医は、医療チームの一員として、他に働いている医師と同様の診療業務（休日や夜間の時間帯を含む）に携わる。

### G. メンター制度

■専攻医の研修上の問題解決やキャリア形成の支援をするためのメンター制度を導入している。

### H. 総括評価

■下記が実施できるような評価体制が準備できる。

- 家庭医療専門研修Ⅰ・Ⅱの修了時に、研修手帳に記載された自己評価の確認と到達度評価を指導医が実施する。
- 研修期間を満了し、家庭医療専門研修Ⅰを12か月以上、家庭医療専門研修Ⅱを6か月以上、合計で24か月以上修了している。

指導医から修了に足る評価が得られたことをプログラム責任者が確認する。

- 専攻医自身が作成したポートフォリオにおいて全領域で基準に到達していることをプログラム責任者が確認する。
- 経験目標は研修プログラムに定められた基準に到達していることをプログラム責任者が確認する。
- 360度評価、CbD、Mini-CEXの結果は、各施設で定めた基準に達していることをプログラム責任者が確認する。

I. 研修修了認定の方法

■修了判定会議のメンバーは、研修管理委員会と同一（専攻医代表のみ退席）

□その他（

）

1 1. 連動プログラム：研修施設

1 1-1. 家庭医療専門研修 I

研修施設名 1	寺井病院	診療科名（	内科	）
施設種別	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 200床以下の小病院	<input type="checkbox"/> 中規模病院（※下に中規模病院で本研修を行う必要性を記すこと）	（	
家庭医療専門研修 I における研修期間	（ 12 ） 月			
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請*			
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。				
指導医氏名 1	中内 義幸	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	（ 2013-911 ）
指導医氏名 2	島 隆雄	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	（ 2014-0471 ）
指導医氏名 3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	（

要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））

施設要件

各専攻医当たりの経験症例数として、

■外来のべ患者数：概ね 30 人／週以上である。

■後期高齢者：経験症例数全体の 10%以上である。

中学生以下の小児：経験症例数全体の 5%以上である。

満たさない場合、以下のいずれかが必要。

1 人の専攻医が診療する中学生以下の患者数が 1 カ月あたり 6 人以上

■同一診療圏内の医療機関（自院小児科も含む）で補完する※：施設名（ 城北病院 ）

第 7 条(5)※に規定する医療過疎地域に位置する施設で、中学生以下の患者を断らずに実際に診療を提供している。

年間患者数実績（ ）人、当該年齢層の患者数（ ）人

第 7 条(5)※に規定する医療過疎地域に位置する施設ではないが、中学生以下の患者を断らずに実際に診療を提供している（2026 年度末までの経過措置）

年間患者数実績（ ）人、当該年齢層の患者数（ ）人

※「研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修」に追記すること。

#細則第 7 条（5）より抜粋

医療過疎地域に位置した施設とは、

①総務省の「過疎関係市町村都道府県別分布図」にて過疎市町村や区域ないしはみなされる市町村や区域に位置する病院・診療所、

②厚生労働省へき地医療対策等実施要綱で定義されるへき地診療所

③地域枠や自治医科大学の卒業生に対する医師派遣施策等に基づき、医師派遣が必要な施設であると各都道府県の医師派遣を担当する部署が判断し、その旨の文書が出せる施設

のいずれかを指す。

■精神医学・心身医学領域の疾患：概ね 2 人／週以上である。

■訪問診療患者数概ね 5 人／週以上、終末期医療概ね 1 人／6 カ月以上であり、緊急往診に対応可能である。

※満たさない場合、以下のいずれかが必要。上の条件の場合「研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修」に追記すること。

同一診療圏内の医療機関で補完する※：施設名（

第 7 条(5)に規定する医療過疎地域に位置する施設で、訪問診療と往診の患者数を合わせて週に 1 人以上、そのうち終末期医療を 1 人以上経験できる

※「研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修」に追記すること。

体制やコンセプト

■アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。

具体的な体制と方略（ 夜間、休日は日当直体制で 1 次救急を担っている。 ）

■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。

具体的な体制と方略（ 外来から入院そして外来・在宅と一連の流れを診ることができる。 ）

■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。

具体的な体制と方略（ 幅広い患者に対応できるように、外来・入院・在宅診療を担当。自治体・企業健診も受け入れている。また、HPH ネットワークに加盟しており、健康増進の取り組みを行っている。 ）

■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。

具体的な体制と方略（ グループ内の施設はもとより、日頃路から近隣施設との連携はできている。 ）

■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。

具体的な状況（ 家族ごと患者を受け入れできる体制になっている。 ）

■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。

具体的な内容与方法（ 自治体健診のお誘いや、地域の健康づくり活動へ継続的に参加し、地域住民の状況や要望を

把握し医療活動につなげる経験ができる。)	
週当たり研修日数：( 4 ) 日/週 ※本研修(家庭医療専門研修Ⅰ)は週に4日以上行わなければならない。下記研修と合算し、業務は週最大5.5日に留めること。	
家庭医療専門研修Ⅰ(本研修)の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数(週1日まで)※カンファレンス等学習機会はここに記載しない。	
内容	城北病院での小児科研修
日数	1日/週

<b>11. 連動プログラム：研修施設</b>				
<b>11-1. 家庭医療専門研修Ⅰ</b>				
研修施設名2	光陽生協クリニック	診療科名( )	内科	
施設種別	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 中規模病院(※下に中規模病院で本研修を行う必要性を記すこと) <input type="checkbox"/> 200床以下の小病院 ( )			
家庭医療専門研修Ⅰにおける研修期間	( 12 ) カ月			
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請※			
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。				
指導医氏名1	平野 治和	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	( 2013-841 )
指導医氏名2		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	( )
指導医氏名3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	( )
要件(各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす(■のように))				
<b>施設要件</b>				
各専攻医当たりの経験症例数として、				
■外来のべ患者数：概ね30人/週以上である。				
■後期高齢者：経験症例数全体の10%以上である。				
<input type="checkbox"/> 中学生以下の小児：経験症例数全体の5%以上である。 満たさない場合、以下のいずれかが必要。				
<input type="checkbox"/> 1人の専攻医が診療する中学生以下の患者数が1カ月あたり6人以上				
■同一診療圏内の医療機関(自院小児科も含む)で補完する※：施設名( 城北病院 )				
<input type="checkbox"/> 第7条(5)※に規定する医療過疎地域に位置する施設で、中学生以下の患者を断らずに実際に診療を提供している。 年間患者数実績( )人、当該年齢層の患者数( )人				
<input type="checkbox"/> 第7条(5)※に規定する医療過疎地域に位置する施設ではないが、中学生以下の患者を断らずに実際に診療を提供している(2026年度末までの経過措置) 年間患者数実績( )人、当該年齢層の患者数( )人				
※「研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修」に追記すること。 #細則第7条(5)より抜粋 医療過疎地域に位置した施設とは、 ①総務省の「過疎関係市町村都道府県別分布図」にて過疎市町村や区域ないしはみなされる市町村や区域に位置する病院・診療所、 ②厚生労働省へき地医療対策等実施要綱で定義されるへき地診療所 ③地域枠や自治医科大学の卒業生に対する医師派遣施策等に基づき、医師派遣が必要な施設であると各都道府県の医師派遣を担当する部署が判断し、その旨の文書が出せる施設 のいずれかを指す。				
■精神医学・心身医学領域の疾患：概ね2人/週以上である。				
■訪問診療患者数概ね5人/週以上、終末期医療概ね1人/6カ月以上であり、緊急往診に対応可能である。 ※満たさない場合、以下のいずれかが必要。上の条件の場合「研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修」に追記すること。				
<input type="checkbox"/> 同一診療圏内の医療機関で補完する※：施設名( )				
<input type="checkbox"/> 第7条(5)に規定する医療過疎地域に位置する施設で、訪問診療と往診の患者数を合わせて週に1人以上、そのうち終末期医療を1人以上経験できる ※「研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修」に追記すること。				
<b>体制やコンセプト</b>				
■アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略( 時間外は職員による交代制で電話にて対応可能。 )				
■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略( 在宅管理のケースを受持ち、指導医と共にカンファレンスを定期実施する。 )				
■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略( 外来及び在宅医療、健診活動に関わり、指導医と連携をして研修をする。 )				
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略( 他事業所連携に関わり、連携ツールを複数利用し研修をする。 )				
■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。				

具体的な状況（ 地域の患者は一家で受診する傾向がある。 ）	
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な内容と方法（ 健康教室や健康相談会などの実施。 ）	
週当たり研修日数：（ 4 ）日/週 ※本研修（家庭医療専門研修Ⅰ）は週に4日以上行わなければならない。下記研修と合算し、業務は週最大5.5日に留めること。	
家庭医療専門研修Ⅰ（本研修）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週1日まで）※カンファレンス等学習機会はここに記載しない。	
内容	城北病院での小児科研修
日数	1日/週

<b>11. 連動プログラム：研修施設</b>				
<b>11-1. 家庭医療専門研修Ⅰ</b>				
研修施設名3	羽咋診療所	診療科名（ 内科 ）		
施設種別	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 中規模病院（※下に中規模病院で本研修を行う必要性を記すこと） <input type="checkbox"/> 200床以下の小病院（ ）			
家庭医療専門研修Ⅰにおける研修期間	（ 6 ）カ月			
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請※			
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。				
指導医氏名1	野口 卓夫	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	（ 2014-0242 ）
指導医氏名2		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	（ ）
指導医氏名3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	（ ）
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））				
<b>施設要件</b>				
各専攻医当たりの経験症例数として、				
■外来のべ患者数：概ね30人/週以上である。				
■後期高齢者：経験症例数全体の10%以上である。				
■中学生以下の小児：経験症例数全体の5%以上である。 満たさない場合、以下のいずれかが必要。				
<input type="checkbox"/> 1人の専攻医が診療する中学生以下の患者数が1カ月あたり6人以上 <input type="checkbox"/> 同一診療圏内の医療機関（自院小児科も含む）で補完する※：施設名（ ） <input type="checkbox"/> 第7条(5)に規定する医療過疎地域に位置する施設で、中学生以下の患者を断らずに実際に診療を提供している。 年間患者数実績（ ）人、当該年齢層の患者数（ ）人 <input type="checkbox"/> 第7条(5)に規定する医療過疎地域に位置する施設ではないが、中学生以下の患者を断らずに実際に診療を提供している（2026年度末までの経過措置） 年間患者数実績（ ）人、当該年齢層の患者数（ ）人 ※「研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修」に追記すること。 #細則第7条(5)より抜粋 医療過疎地域に位置した施設とは、 ①総務省の「過疎関係市町村都道府県別分布図」にて過疎市町村や区域ないしはみなされる市町村や区域に位置する病院・診療所、 ②厚生労働省へき地医療対策等実施要綱で定義されるへき地診療所 ③地域枠や自治医科大学の卒業生に対する医師派遣施策等に基づき、医師派遣が必要な施設であると各都道府県の医師派遣を担当する部署が判断し、その旨の文書が出せる施設 のいずれかを指す。				
■精神医学・心身医学領域の疾患：概ね2人/週以上である。				
■訪問診療患者数概ね5人/週以上、終末期医療概ね1人/6カ月以上であり、緊急往診に対応可能である。 ※満たさない場合、以下のいずれかが必要。上の条件の場合「研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修」に追記すること。 <input type="checkbox"/> 同一診療圏内の医療機関で補完する※：施設名（ ） <input type="checkbox"/> 第7条(5)に規定する医療過疎地域に位置する施設で、訪問診療と往診の患者数を合わせて週に1人以上、そのうち終末期医療を1人以上経験できる ※「研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修」に追記すること。				
<b>体制やコンセプト</b>				
■アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略（ 時間外は職員による交代制で電話にて対応可能。 ）				
■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略（ 在宅管理のケースを受け持ち、指導医と共にカンファレンスを定期実施する。 ）				
■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略（ 外来及び在宅医療、健診活動に関わり、指導医と連携をして研修をする。 ）				
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略（ 他事業所連携に関わり、連携ツールを複数利用し研修をする。 ）				

<b>■家族志向型ケア</b> ：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な状況（ 地域の患者は一家で受診する傾向がある。 ）	
<b>■地域志向型ケア</b> ：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な内容与方法（ 健康教室や健康相談会などの実施。 ）	
週当たり研修日数：（ 4 ）日／週 <small>※本研修（家庭医療専門研修Ⅰ）は週に4日以上行わなければならない。下記研修と合算し、業務は週最大5.5日に留めること。</small>	
家庭医療専門研修Ⅰ（本研修）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数 （週1日まで）※カンファレンス等学習機会はここに記載しない。	
内容	
日数	日/週

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載。その際、研修施設名「1」の番号を順に「2」、「3」と増やすこと。

<b>11-2. 家庭医療専門研修Ⅱ</b>				
研修施設名1	城北病院	診療科名（ 内科 ）		
施設情報	病院病床数（ 300 ）床	診療科病床数（ 115 ）床		
家庭医療専門研修Ⅱにおける研修期間		（ 6 ）カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり	<input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請※		
<small>※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。</small>				
指導医氏名1	松島 実	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	（ 2014-1539 ）
指導医氏名2	牧田 智絵	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	（ 2013-910 ）
指導医氏名3	中村 宏信	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	（ 2013-0365 ）
指導医氏名4	武石 大輔	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	（ 2013-586 ）
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））				
<b>施設要件</b>				
<input checked="" type="checkbox"/> 一般病床を有する <input checked="" type="checkbox"/> 救急医療を提供している				
<b>各専攻医当たりの経験症例数</b>				
<input checked="" type="checkbox"/> 退院サマリー作成数：概ね8人／月以上 <input checked="" type="checkbox"/> うち、救急外来や一般外来からの緊急（即日）入院：概ね4人／月以上 <input checked="" type="checkbox"/> 退院前カンファレンス参加件数：概ね1件／月以上 <input checked="" type="checkbox"/> 外来患者数：概ね15人／週以上 <input checked="" type="checkbox"/> うち、新患・定期外の急性の問題：概ね5人／週以上 <input checked="" type="checkbox"/> 救急外来患者数：概ね3人／週以上				
<b>病棟診療</b>				
<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者（特に虚弱）ケア 具体的な体制と方略（入院の約半数が高齢者であり、いろいろな医療資源を使用しケアする。 ）				
<input checked="" type="checkbox"/> 複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略（1医局のため、当院の他科専門医にコンサルトをしやすい環境である。大学病院、公立病院、近隣病院の専門医との連携もとれている。 ）				
<input checked="" type="checkbox"/> 必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略（大学病院、公立病院、近隣病院の専門医との連携をしているので、必要なコンサルトは可能。 ）				
<input checked="" type="checkbox"/> 心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略（精神科医2名、臨床心理士1名、医療ソーシャルワーカー5名常勤でいるので常時相談ができる。病棟毎に多職種によるカンファレンスも週1回行われており、そこでは患者の生活背景も含めて対応を検討し共有している。倫理的な事例は倫理委員会で集団的に検討している。 ）				
<input checked="" type="checkbox"/> 癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略（緩和ケア認定看護師を中心にチームで対応している。緩和ケア病棟もあり研修も可能である。 ）				
<input checked="" type="checkbox"/> 退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略（退院においては医療ソーシャルワーカー、地域連携室が関わり近隣の施設と調整を行っている。退院時には受け入れ先も含めて退院時カンファレンスを開催している。同一法人内にも在宅支援を行う施設が複数ある。 ）				
<input checked="" type="checkbox"/> 在宅患者の入院時対応 具体的な体制（法人内の在宅支援診療所や近隣の診療所の紹介入院がある。急性期が終われば紹介元に戻れるように調整する。 ）				



<b>外来診療</b>	
■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（ 24 時間当番制で救急外来を担当し、急患や救急車の対応を行っている。）	
■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（ 救急外来にて、小児から高齢者まで総合的に診療を行う。病院外来で総合外来および内科一般外来を担う ）	
■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（救急では 2.5 次救急まで担う。総合外来では、初診の患者を主に診療する。内科一般外来は、慢性期の定期受診患者であり、生活習慣病として患者背景も含めて対応が必要である。 ）	
■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（週 1 回家庭医療カンファレンス、外来診察については指導医と全例振り返りを行う。）	
■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（ 城北病院は 1 医局で、当院の他科専門医にコンサルトをしやすい環境である。大学、公立病院、近隣病院の専門医との連携もとれている。院内の各職種とも日頃から連携が取りやすい環境で、協力しながらケアをする。 ）	
■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（ 他院へ紹介して、精査を行う。）	
<b>体制やコンセプト ※この施設で 12 か月以上連続して行うことを細則第 4 条の要件とする場合には記載する</b>	
■アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略（ 2 次救急を実施。 ）	
■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略（ 入院主治医を実施していた患者が退院した後の外来フォローも実施する。 ）	
■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略（ 担当入院患者が急性期病棟から地域包括ケア病棟、慢性期病棟、緩和ケア病棟に転病棟しても継続的に主治医を継続する。 ）	
■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略（ 同一法人内診療所、介護施設等と密接に連携をしている。また地域の病院、診療所、介護介・福祉施設とも連携をとっている。 ）	
■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な状況（ 城北病院の外来は慢性疾患管理を実施しており、家族ぐるみの診療も多い。 ）	
■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な内容と方法（ 城北病院は日本 HPH ネットワークに加盟しており、患者の視点、住民の視点でのヘルスプロモーション活動に取り組んでいる。 ）	
週当たり研修日数：（ 4 ）日/週 ※本研修（家庭医療専門研修Ⅱ）は週に 4 日以上行わなければならない。下記研修と合算し、業務は週最大 5.5 日に留めること。	
家庭医療専門研修Ⅱ（本研修）の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週 1 日まで）※並行して行う研修は内科、小児科は除く。カンファレンス等学習機会はここに記載しない。	
内容	城北病院での総合外来 (0.5)・一般外来 (0.5)・皮膚科 (0.5)・眼科 (0.5)、城北病院での放射線科 (0.5)・検査部 (0.5) 専攻医の希望により週 1 日を限度に組み合わせて研修する。産業医療科 (1) は期間内に行う。
日数	1 日/週

※研修施設が 2 箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載。その際、研修施設名「1」の番号を順に「2」、「3」と増やすこと。

11-3. 領域別研修：その他*						
研修領域	必修・ 選択別	ブロック・ 兼任の別	研修日数/週 (兼任の場合)	研修期間	研修施設名と 診療科名	指導医氏名
内科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( ) カ月		
小児科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( ) カ月		
救急	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( ) カ月		
一般外科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( ) カ月		
整形外科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( ) カ月		
精神科/ 心療内科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( ) カ月		
産婦人科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( ) カ月		
皮膚科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input checked="" type="checkbox"/> 兼任	(0.5) 日/週	( 1 ) カ月	城北病院 皮膚科	内山 恵理
泌尿器科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input checked="" type="checkbox"/> 兼任	(0.5) 日/週	( 1 ) カ月	城北病院 泌尿器科	折戸 松男
眼科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	(0.5) 日/週	( 1 ) カ月	城北病院 眼科	佐々木 洋
耳鼻咽喉科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( ) カ月		
放射線科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	(0.5) 日/週	( 1 ) カ月	城北病院 放射線科	牧田 伸三
臨床検査	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	(0.5) 日/週	( 1 ) カ月	城北病院 検査科	(指導者：米澤 文枝臨床検査技 師)
リハビリ テーション	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( ) カ月		
その他 ( )	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( 1 ) 日/週	( 1 ) カ月	城北病院 健康支援センター	服部 真

※家庭医療専門研修プログラム期間中に行うものだけ記載すればよい。